

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：西山・澤村]

TEL：0853-22-6904

FAX：0853-24-3342

令和7年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号（新病害虫発生情報）

令和7年7月14日  
島根県病害虫防除所

本県において、ナシにおけるフタモンマダラメイガの発生が初めて確認されたので特殊報を發表します。

- 1 病害虫名 フタモンマダラメイガ
- 2 学名 *Euzophera batangensis* Caradja
- 3 作物名 ナシ

#### 4 発生確認の経緯

令和7年4月、県東部のナシ（幸水）ほ場の樹皮下において、チョウ目と思われる繭を確認した（図1）。繭と幼虫（図2）を飼育し、羽化した成虫（図3）を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、5月28日に本県のナシで未発生であるフタモンマダラメイガと同定された。

#### 5 国内における発生状況

国内のナシにおいては、平成11年に三重県で初確認されて以降、愛知県、愛媛県、神奈川県、福島県、新潟県、山口県、静岡県及び京都府において確認されている。

#### 6 被害の特徴

幼虫が樹皮下の形成層を集中的に食害する。食害箇所からは黒褐色の虫糞が漏出し（図4）、めくると淡褐色の幼虫、白色の繭に包まれた蛹を確認できる。枝幹での被害が多く見られるが、激発すると樹勢を低下させる。また、ナシにおいては果実での被害も確認されている。

#### 7 形態及び生態

老齢幼虫は、体長13mm程度、体色は淡褐色、頭部は茶褐色を呈する（図2）。成虫は開張15mm程度、体色は紫褐色を呈し、2本の灰色波状横帯が特徴的である（図3）。3月頃から越冬世代幼虫が蛹化し、4月から5月にかけて枝幹の樹皮下から越冬世代成虫が羽化する。その後、年3回から4回発生を繰り返す、10月以降に幼虫は枝幹の樹皮下で白色の繭を作って越冬を開始する（図1）。

#### 8 防除対策

- 1) 被害が著しい枝及び樹は伐採し、ほ場外に持ち出して深く埋設する。
- 2) 冬期に粗皮削りを行い、越冬幼虫を捕殺し、次世代の発生密度を低下させる。
- 3) ナシにおける本種に対する薬剤は、フルベンジアミド水和剤が登録されている（表1）。耕種的・物理的防除と併せて行なうことで、防除効果は高くなる。
- 4) 薬剤の使用に当たっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を遵守する。

## 9 その他

疑わしい症状が発生している場合は、島根県病害虫防除所（農業技術センター資源環境研究部 病虫科：0853-22-6772）に連絡する。

## 10 参考資料



図1. 樹皮内の越冬繭



図2. 老齢幼虫



図3. 成虫



図4. 粗皮の虫糞噴出(赤丸)

表1. ナシのフタモンマダラメイガ防除薬剤（令和7年7月現在）

RACコード	農薬名	希釈倍率	使用時期	使用方法	本剤使用回数	同一成分総使用回数
28	フェニックスフロアブル	4000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	2回以内